

慶應医学会 ニュースレター

～The Keio Medical Society～

Vol. 35 2025 年 12 月

2025 年 11 月 22 日開催 第 105 回慶應医学会総会・シンポジウム報告

<総会>

(※開催当時の役職名にて記載しております)

2025 年 11 月 22 日 (土) に慶應医学会総会を大会議室にて開催いたしました。

総会では、武林亨会長による物故者への黙祷より総会議事に進み、会員の皆様方より承認をいただきました。

併せて、野村達次賞授賞式も行われました。以下に主な内容をご報告いたします。

【総会議事次第】

- | | |
|----------------------------------|------------------|
| 1) 会則の変更 | (武林亨会長) |
| 2) 新理事・監事・評議員 | (武林亨会長) |
| 3) 2024 年総務報告・2025 年中間総務報告 | (家田真樹総務担当理事) |
| 4) 2024 年決算報告・2025 年中間決算報告 | (武林亨会長) |
| 5) 2026 年事業計画 (案) および予算 (案) について | (武林亨会長) |
| 6) 野村達次賞について | (田中謙二野村達次賞審査委員長) |

<野村達次賞授賞式>

厳正なる審査の結果、第 12 回受賞者は
安西淳先生 (慶應義塾大学医学部 内科学
教室 (循環器) 専任講師) ならびに入江
奈緒子先生 (慶應義塾大学医学部 分子生
物学教室) に決定いたしました。

授賞式では賞状と目録が授与され、受賞
者より研究内容のご発表がありました。
ご受賞、まことにありがとうございます。

公益財団法人実中研理事長野村龍太先生
と所長末松誠先生とともに記念撮影を行
いました。



<シンポジウム『 医の進化・知の深化 ―AI と描く医学と医療の未来図 』>

慶應義塾大学医学部石井・石橋記念講座（拡張知能医学）の桜田一洋教授、慶應義塾大学医学部小児科学教室の鳴海覚志教授をコーディネーターとして、「医の進化・知の深化 ―AI と描く医学と医療の未来図」をテーマにシンポジウムを開催いたしました。学内外より 4 名の先生方を講師としてお招きし、3 時間半超にわたりご講演いただきました。質疑応答も活発に行われ、盛況のうちに終了いたしました。

【プログラム】（敬称略）

I. 『 医学領域における AI の近未来―現状を超えた応用範囲― 』

後藤信一（東海大学 医学部総合内科学系・総合内科学 講師/ Brigham and Women's Hospital/
Harvard Medical School. Instructor in Medicine)

II. 『 AI／生成 AI 技術の医療への応用と今後の展望 』

浜本隆二（国立がん研究センター研究所 医療 AI 研究開発分野 分野長）

III. 『 AI で捉え直す疾患病態と治療戦略 』

川上英良（理化学研究所 数理創造研究センター (iTHEMS)数理展開部門
医科学データ駆動数理チーム チームディレクター)

IV 『 医療 DX の現状と今後の展望 』

陣崎雅弘（慶應義塾大学医学部放射線科学教室（診断）教授）

✎ コーディネーターの先生よりシンポジウムの「総評」をご寄稿いただきました ✎

【第 105 回慶應医学会総会シンポジウム開催

「医の進化・知の深化 ―AI と描く医学と医療の未来図―】

慶應義塾大学医学部小児科学教室 教授 鳴海覚志

第 105 回慶應医学会総会・シンポジウム「医の進化・知の深化 ―AI と描く医学と医療の未来図―」が 2025 年 11 月 22 日に信濃町キャンパス 2 号館大会議室で開催されました。本シンポジウムでは循環器医学、医療 AI 開発、データ駆動型疾患研究、AI ホスピタルという異なるフィールドで最前線を担う 4 名の講師をお招きし、AI が医学・医療にもたらす変革を俯瞰する機会となりました。コーディネーターは小児科学教室の鳴海覚志教授および石井石橋記念講座（拡張知能医学）桜田一洋教授が務めました。



桜田一洋先生



鳴海寛志先生

東海大学の後藤信一先生より、循環器領域における AI 研究の現状と将来展望についてご講演いただきました。心電図や心エコーといった日常臨床で広く利用される画像・波形情報を例に、AI による疾患層別化や予後予測が既に高い精度を示している一方で、施設間でのデータ共有が難しいことや、モデルが「何を根拠に判断しているのか」が解釈しにくい点が臨床応用のボトルネックとなっていることが示されました。これらに対し、連合学習による多施設データ活用、さらには臨床医が理解できる形で判断根拠を提示する「解釈可能な AI」の重要性が強調されました。

国立がん研究センターの浜本隆二先生からは、医療 AI の社会実装と生成 AI の最新動向についてお話いただきました。深層学習の進歩と大規模データ活用が引き起こした AI 普及の背景を解説され、AI 搭載医療機器の薬事承認の増加や、実臨床を見据えた統合データベース整備の重要性、そして法規制・倫理面とのバランスをとりながら導入を進める姿勢についても触れられ、非常に実務的かつ示唆に富む内容となりました。



後藤信一先生



浜本隆二先生

千葉大学の川上英良先生からは、ビッグデータ解析と AI を組み合わせた疾患病態研究の新展開についてご講演いただきました。AI は診断精度向上に留まらず、疾患病態の再定義、治療反応性を踏まえた層別化、そして慢性疾患の早期検知にも役立つことを、卵巣腫瘍、アトピー性皮膚炎、ネフローゼ症候群の研究を例に紹介されました。基盤モデルの発展により、言語・画像・シングルセル・生体データなど多様な

モダリティが統合されつつある現在、AI が医学研究のパラダイムシフトを加速させるとの展望が語られました。

最後に慶應義塾大学の陣崎雅弘先生から、慶應義塾大学病院における AI ホスピタルプロジェクトの経験を中心に、病院 DX の現状と今後の課題についてご講演いただきました。かつて画像認識型 AI が注目を集めたものの臨床業務では限定的活用に留まった背景が説明され、2022 年以降の生成 AI 登場により、退院サマリー作成支援などの実務的価値が高い領域に活用可能性が広がったことが説明されました。DX は技術導入のみでは成功せず、現場の多職種が一体となった組織変革、そして AI に適した新たなワークフローの再設計が不可欠であると結ばれました。



川上英良先生

陣崎雅弘先生

今回のシンポジウムを通じて、AI が医学・医療の支援ツールという枠を超え、臨床・研究・組織運営を含む広い領域でその枠組みを再構築するポテンシャルを有していることが確認されました。医師・医学研究者が主体性と専門性をもって AI 時代の医療・医学を形づくっていく重要性を再認識する機会となりました。ご参加いただいた皆さまに深く感謝申し上げます。



第 106 回慶應医学会総会・シンポジウムのご案内

来年の総会・シンポジウムは、2026 年 11 月 28 日（土）に開催する予定です。詳細につきましては、今後、慶應医学会ホームページおよび 10 月に発行予定の次号ニュースレター等にてご案内させていただく予定です。

事務局より

- ・慶應医学会ホームページ（URL：<http://www.keiomedsoc.org/>）では例会開催情報や例会講演の抄録、医学部に新しく就任された教授・准教授・講師の先生よりご寄稿いただいたご挨拶や抱負なども掲載いたしておりますので、是非一度ご利用ください。
- ・ニュースレターに関するご意見・ご要望などがございましたら、事務局にお問い合わせの程よろしく願いいたします。

発行：慶應医学会 〒160-0016 東京都新宿区信濃町 35
TEL：03-3359-0052 FAX：03-5361-7091 E-mail：keio-igakkai@imic.or.jp